

はじめに

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から3年以上が経過しました。政府は被災4年目に向け、復興を加速させる決意を表明しましたが、福島県は原発事故の影響が大きく、復旧には困難を極めています。

2013年は、春から夏にかけて風しんが全国的に流行しました。福島県からも2012年の7倍の報告数がありました。これを受けて、先天性風しん症候群の増加も懸念されましたが、現在のところ全国からの報告数は、昨年とほぼ同様におさまっています。その他、2013/2014シーズンのインフルエンザからは、抗インフルエンザ薬「タミフル」などが効きにくいH1N1型のインフルエンザウイルスが見つかっており、今後のインフルエンザの動向に注意が必要です。

福島県内では、特産品である「あんぼ柿」が、原発事故の影響により一時加工を自粛しておりましたが、2013年より一部の地域で加工を再開しました。2年目の今年は生産地域を拡大し、生産量も昨年の3倍以上を目標としています。これが、復興への足がかりとなることを期待しています。

当所では、県民の方々の安全・安心を確保するため、放射能検査や残留農薬検査、食中毒検査や食品添加物検査、ウイルスや細菌の調査研究など、様々な業務に日々励んでおります。また、感染症情報の収集・解析を行い、情報提供することで感染症の予防に努めております。今後とも復興への一役が担えるよう、所員一同研鑽を続けていく所存です。

ここに平成25年度の業務実績を「福島県衛生研究所年報第31号」として取りまとめました。内容をご覧いただき、ご意見、ご提言を預ければ幸いです。日頃の当所の業務推進に対する関係機関の皆様のご協力に心からの感謝を申し上げますとともに、今後ともご支援を預きますようお願いいたします。

平成27年1月

福島県衛生研究所長 笹原 賢司